

一般社団法人モザンビークのいのちをつなぐ会 (PVM)

2024年度・2025年度重点活動

モザンビーク北部・テロ紛争の地から
支援と経済の輪を創造する



Jun/2024

わくわく 寺子屋での給食の前の手洗い。
病弱だったけど、すっかり元気になったタデウ君と、
お茶目でしっかり者のジャスミンちゃん。



2023年・2024年の表彰履歴 2024年5月現在

令和4年度 国際居住年記念賞

開発途上国における居住環境の改善に向けた国際協力活動を行っている団体に授与される賞。
一般社団法人日本住宅協会
2023年7月受賞



第1回 風に立つライオンオブ・ザ・イヤー

日本国内外で命や平和を守るために献身的に活動している個人・団体を表彰。財団設立者のさだまささんの楽曲で、困難があっても強く、人の命を助けたい、という生き方を意味する「風に立つライオン」。そのモデルとなった医師・柴田紘一郎氏を冠し、海外で活動する個人・団体を表彰する「柴田紘一郎賞」を受賞。第1回の表彰です。
公益財団法人風に立つライオン基金
2023年11月受賞



風に立つライオン基金
設立者のさだまさ
さんと当会代表榎本、
寺子屋ディレクター
ナジャ。



第60回 社会貢献者表彰

社会と人々の安寧と幸福のために尽くし、顕著な功績を挙げながらも報われる機会の少なかった方々を表彰し、日本財団賞を贈るもの。財団の会長は安倍昭恵さん。
公益財団法人社会貢献支援財団（FESCO）
2023年11月受賞

財団会長の安倍昭恵さんと
当会代表榎本、寺子屋ディ
レクターのナジャ。



第27回 地球倫理推進賞

活動が営利を目的とせず、5年以上継続し教育・文化・医療・環境・地域開発などの分野において、地球倫理の推進に貢献している団体を国内・海外各1団体表彰。
一般社団法人倫理研究所
2024年3月受賞



文部科学大臣賞

様々な分野で顕著な活躍
或いは成果を挙げた個人
又は団体に対し、文部科
学大臣の名により授与す
る賞。
文部科学省
2024年3月受賞

当会国内調整員水淵と
代表の榎本、国内部門
受賞のJAMネットワーク。





活動内容とスローガン

モザンビーク北部の支援の光の届かないエリアで 途切れることなく活動を続け、12年!!

教育活動

スラムの学び舎・寺子屋

スラムと避難民の子どもたち350人が通所

公衆衛生活動

コレラ・HIV予防

感染症による死亡率ゼロを達成中

水環境活動

井戸、共同水場整備

危機的かつ慢性的な水不足を解消

環境保全活動

食べられる緑化、美化

環境問題と貧困問題を両立し改善

紛争被災者支援活動

平和の家の建築運営

避難施設・平和の家運営と食料・衣料配布

モザンビークのいのちをつなぐ会は「**小さいけれど、チカラ持ち!**」を
スローガンに、スラム地区の100名のメンバーとともに、社会支援のジレンマをおこさない、
実効力ある**直接活動**を、地道かつ確実に遂行する**真の草の根NGO**です。

写真：6月1日子どもの日、寺子屋の子どもたち200人でビーチに行きました。



モザンビークのいのちをつなぐ会の役割

最貧国の最貧困地で、現地住民と一体となった直接活動を続けています。

■2022年度の人間開発指数は191カ国中185位。モザンビークの首都から最も離れた北部カーボデルガド州はかつてより「忘れられた州」と呼ばれており社会投資が放置されたままでした。2010年代から天然ガス開発により一挙に注目を浴びるも、政策改善は行われず、貧困率が国内でも最も低い州のまま。この地で当会は、2013年よりスラム地区の中心に住みながら現地有志総勢100名とともに地道な直接活動を続けています。

グローバルキャピタルの相対としての「不可視化され、支援もされない土地」。モザンビーク北部で活動を行う草の根NGOは当会のみ。

■先進国による開発により発生・問題化するネガティブな事態の伏線回収として、国連系機関や日本を含む開発国から多額の支援金がモザンビークに投入されていますが、残念ながら、スラムの住民たちのもとに国際支援が届くことは、ほとんどないのが現状です。

■グローバル資本主義の「支援・開発」に着目した、マネタイズ化が拡大しており、間接的な支援は実際に現地に届かない場合もあり、現地主体となった「直接支援」が重要です！

なおざりにされた人たちの命を確実に守り、力強く未来を拓く。

■「生きる、学ぶ、創る」活動を通し、「今日を生きる」から「未来に生きる」生活の改善を行います。

■貧困地域で住民と同じ暮らしをすることで得られる厚い信頼を基盤に、ほんとうに住民が必要としている施策を実行。一人ひとりの状況を把握し、机上の空論スピード主義ではなく、じっくり成長を促す発酵感覚で取り組んでいます。

2024年度2025年度は、テロ紛争の地から
「支援」と「経済」の循環を創造するコミュニティのモデルづくり
を目的に、命を守り、健やかな暮らしの基盤を創る活動に注力します。

活動エリア



【事務所・ペンバ寺子屋・平和の家】

モザンビーク最北部カーボデルガド州の
州都ペンバ。

カーボデルガド州
テロ紛争の激化が
世界的な懸念事項

【ナンプラ寺子屋】

ペンバから車で南に5, 6時間
に位置するナンプラ州ナンプラ

首都は最南端に
位置するマプト



カーボデルガド州
ペンバ

モザンビークのいのちをつなぐ会の施設

【カーボデルガド州・ペンバ】

●事務所 (2013年～)

●ペンバ寺子屋 (2014年～)

●ナティティCasa de Paz (2021年～)

◎エスパンサオンCasa de Paz (2025年から着手)

◎エスパンサオン共同水場 (2023年から着手)

【ナンプラ州・ナンプラ】

●ナンプラ寺子屋 (2021年～)

モザンビークについて

- 面積: 79.9万平方キロメートル(日本の約2.1倍)
- 人口: 約3,297万人(日本の約1/4) ●首都: マプト(人口約116万人)
- 民族: マクワ、マコンデ、ロムウェなど43部族
- 言語: ポルトガル語と各民族の言語(北部はマクワ語、マコンデ語等)
- 宗教: キリスト教(60%)、イスラム教(20%)、原始宗教
- 略歴: 1498年 ヴァスコ・ダ・ガマがモザンビーク島に到達
1752年 ポルトガルによりモザンビーク総督府設置
1964年～1974年(停戦)モザンビーク独立戦争
1975年 ポルトガルから独立
1977年～1992年(停戦)モザンビーク内戦

470年間に渡る
植民地化の
愚民化政策で
QOLが最悪に。

2017年～現在、モザンビーク北部でイスラム過激派による攻撃続発

- ◆平均寿命: 58.1歳(2023年) ◆出生率: 4.64人(2021年)
- ◆5歳未満の乳幼児死亡率: 18%(カーボデルガド州2008年)
- ◆5歳未満の栄養失調率: 56%(カーボデルガド州2008年)
- ◆15歳以上のHIV感染率: 13.9%(2022年) ◆1人当たりGDP: 544USD(2022年)

モザンビーク北部カーボデルガド州最大のスラム地区の真ん中に事務所を構えて活動継続中。

イスラム過激派の攻撃が激化する中、草の根活動を続けている団体は、
モザンビークのいのちをつなぐ会、ただひとつです。



モザンビーク北部の課題

子どもの貧困率は60%、栄養不良は72%。5歳未満の死亡率は8%。
未来を描くことが困難な、モザンビークの最貧困地。

教育

長期に渡る植民地時代の愚民化政策と、社会インフラの未整備により、教育レベルが非常に低い。

子どもたち (5-17歳) の55.7%が学校に一度も通ったことがない。

公衆衛生

不衛生な環境、医療レベルの低さから、新生児死亡率20%、乳幼児死亡率は8%(18%から改善) と、国内で最も死亡率が高い。
また、5歳未満の72.6%が栄養不良に陥っている。

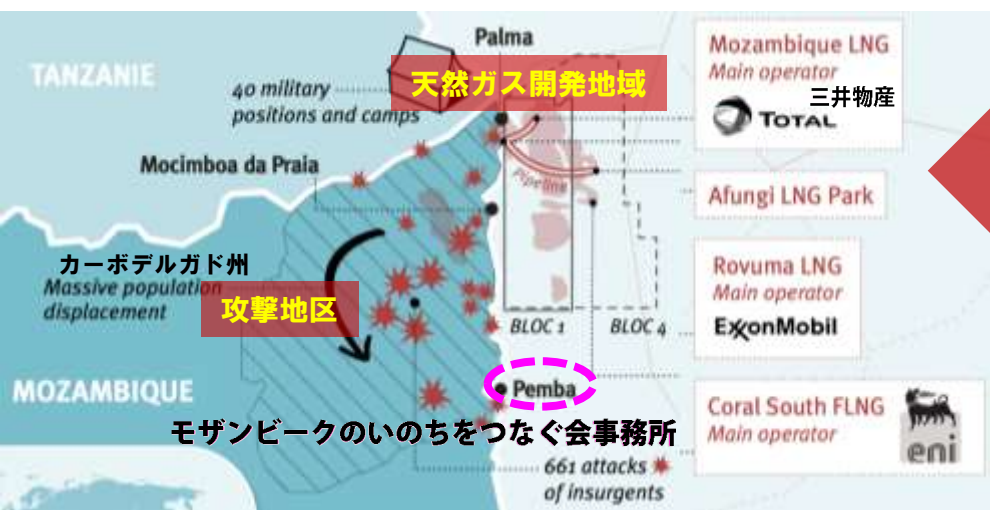
そもそも脆弱な環境に加え、**イスラム過激派のテロ紛争も発生。**

NOW

テロ紛争

日本も参入する天然ガス開発を一因としたイスラム過激派のテロ紛争が、国内で初めて勃発。海外からの支援は天然ガス開発の保護が目的となっており、被災者支援がなおざりになっている。

アフリカ最大規模の天然ガス(LNG)開発が進められ、同時期の2017年、イスラム過激派のテロが国内で初めて勃発。現在攻撃が分散拡大中。



日本が日常的に使用するガス資源の採掘場所

生産される年間1,200万トンの天然ガスの約3割は、日本の電力・ガス会社が引き取る予定。

開発のため、住民が土地・仕事を追われる

住民が開発に参加できず、利益も落ちない

不公平・不平等への不満

政府腐敗・利権主義・縁故主義

イスラム過激派思想流入

5,000名以上が死亡、100万人が避難民となり、115万人が食糧難に。
当会拠点のペンバに、14万人の避難民が流入。

カーボデルガド州の2020年の死者数は2019年の2倍。
モザンビーク全体の死者の97%がカーボデルガド州。

イスラム過激派
テロ攻撃の拡大

死者・避難民
の増加

深刻な
食糧難

貧困不満から
過激派に参加

子どもの
拉致の増加

テロ紛争に加え、さらにはロシア・ウクライナ戦争により
燃料、食料価格が高騰！インフレ化加速。深刻な飢えと貧困。

モザンビークのいのちをつなぐ会では、

支援が届かない避難民・スラムの人たちの声に答えて、
食料・衣料配給、避難施設の運営を2021年から開始。





最重要活動

公衆衛生と食料支援が、 命を守る最重要活動！

相互扶助の力が働くペンバのスラム地区では、ペンバに流入する紛争避難民を自主的に受け入れ、一つの家で30人から50人で暮らす家もあり、食料不足と衛生状態が悪化。感染症の流行も拡大。他所の避難テントでは暴行が横行し、寺子屋に駆け込む人も増加。

コレラの流行

+

出血性結膜炎の流行

+

HIV^{15-49歳}感染率 14.8%

+

スラムの子どもたちの15%が1日1食以下で生き抜く！

衛生状況の悪化と飢えを
ペンバ寺子屋を拠点に改善しています。

ペンバ寺子屋にはスラムの子どもたちと紛争避難民の子ども総勢350名が通所。



ペンバ寺子屋の役割

無教育の連鎖を断ち切り、年長者から年少者へ、**学びの循環を創造**するため、カーボデルガド州最大のスラム、ペンバ・ナティティ地区にペンバ寺子屋を2014年建設。
教育&公民館機能。

教育

道徳を基盤に、読み書き、算数、社会、工作等指導。

スラム+テロ紛争避難民の子どもたち約**350名**が通所。

公衆衛生

手洗い・歯磨き習慣。
コレラ等感染症予防。

**命と未来を守るため
必要不可欠な場**

配食

1日1食以下15%を改善。
朝と晩の配食活動。

駆け込み寺

24時間対応の救急搬送。
保健、人生相談。



寺子屋の車はスラムの
みんなの救急車。



主な活動<1>: 教育活動

スラムの学び舎・寺子屋の運営

ペンバ寺子屋
ナンプラ寺子屋



無教育の連鎖を断ち切り、夢を拓く！

経済的理由や親の教育への無関心により、子どもたちの半数以上が学校に通えなかった環境を改善し、現在ではすべての子どもが学校に通っています。しかし教育レベルが低いため、寺子屋では道徳を基盤に、基礎教育や学校で教えてくれないことを学び、好奇心を高め、夢に近づくサポートを行っています。

目的：知的好奇心の向上と教育の機会の増大

内容：読み書き、算数、英語、工作、社会、音楽等の学習、奨学用品の配布

対象：2歳から40歳（メインは子ども）

通所人数：約350名 **幼児組が増加中**

学校の制服を配布することで
通学率が一気に上がります。



目標

寺子屋から進学、起業する人財を輩出する。

夢に近づく、寺子屋キッズ！

理想を持つことが何より大事！地域のスター（憧れの人）を輩出し、「やればできる！」と続く人財を育てます。



政府の奨学金でドイツ留学が決まったミステリオ。



寺子屋オープン時から通っていたエディは警備会社に勤めながら学校に通っています。



欧州の財団の奨学金で、ポルトガルの音楽院へ留学が決まったオズバルド。



プロサッカー選手になったエルデル。

寺子屋ディレクター

ミュージシャン&寺子屋ディレクターとして、コミュニティのみんなに愛されています

ナジャ



内戦中に生まれたナジャ
平和への思いが強く、またマコンデ族の「勇気、敬意、文化保護」精神を大切に、スラムの子どもたち一人ひとりに愛情を注いでいます。



北九州親善ソング
「Let's go Kitakyushu」

寺子屋キッズの様子や、公演の様子は
Youtubeチャンネル
Natite Mozambique でご覧いただけます。



Natite Mozambique



平和のうた
「Axinamwane」

子どもたちと一緒に親善ソングや平和の歌を作りました！



主な活動<2>: 公衆衛生活動



4年連続疾病死亡率ゼロ！ 公衆衛生活動

キレイ習慣を身に付けて、感染症から身を守る！

死が非常に身近なスラム地区。衛生用品を買うお金がないため、石鹸や歯ブラシを使ったことがない子どもたちがほとんどです。また外傷からの感染症による死亡率も高いため、寺子屋では怪我の応急処置の他、救急搬送も行っています。

目的：衛生習慣を身に付ける

内容：歯磨き、手洗い、爪切り、洗濯など

対象：寺子屋に通所する子どもたち

目標

ウイルス・細菌による疾病死亡率の低減。



新入生も多いため、毎年、手洗い方法等、しっかり教えています。



主な活動<3>: 配食活動

2 飢餓を
ゼロに



飢えと栄養失調改善！ 配食活動

1日1食以下が15%。7割が栄養不良。

深刻な食糧難により、栄養状態が悪い子どもたちがさらに増えているため
寺子屋では朝と晩、食料配布（給食）を、スラムのママさんへは食材配布を行っています。

寺子屋での食事がないと、夜中にゴミをあさりに行ったり
売春に走る女子もいるため、配食活動は子どもの心身の健やかな成長を支える、
大変重要な活動になっています。

目的：すべての子どもが1日2食は摂食
できるようにする

内容：朝と晩の配食、家庭への食材配布

対象：寺子屋に通所する子どもたち、
スラムのママさん

目標

栄養失調の改善。健康的な心身づくり。



スラムの住民にも食材配布



主な活動<4>: 水環境整備活動



目的 安全な水へのアクセス率向上。衛生環境整備。

村の水場は川底からしみ出る水。
すべての生活用水に使用。
動物とも共用しています。



村で調達できる部品を用いて、ロープポンプ式井戸
(浅井戸)を製造・設置。

不衛生な水の常用の改善
トイレの整備

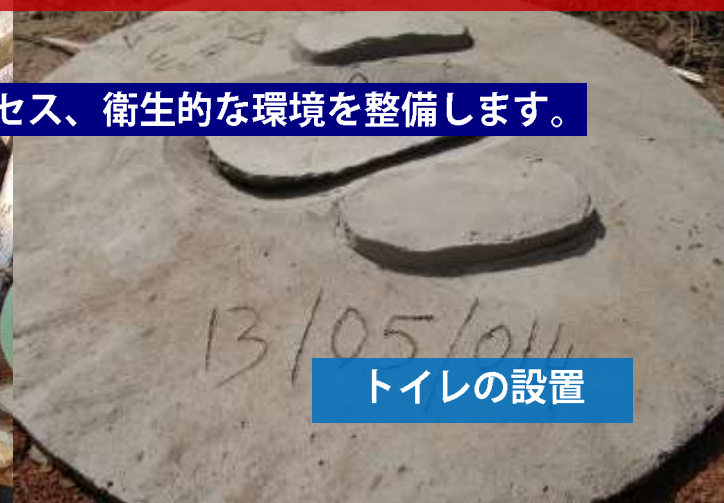
農村地区での水環境整備活動



手作り浄水器の配布



村の木で作るピットトイレ



トイレの設置

農村ではトイレも井戸もない村が多数。
村にある材料を用いて安全な水へのアクセス、衛生的な環境を整備します。

深井戸の設置
共同水場

スラム地区での水環境整備活動

スラム地区とは人口が密集する町の貧困地区。スラムのトイレはピットイン式で汲み取らないぼットン便所なので井戸を掘っても浅井戸では水が汚染されているため、深井戸を設置する必要があります。ペンバは慢性的かつ深刻な水不足で、水道を引いていても、水が出るのは良くて1週間に1回。何ヶ月も水が出ないことがあり、安全な水のアクセスのために、深井戸が必要となります。

深井戸、寺子屋、平和の家の建築も、
スラムの経済と支援の循環のために、
すべてスラムの職人さんと一緒に作業を行っています。



手掘りでの掘削

手掘りで45mの深井戸を設置

深井戸は手掘りで2週間から1ヶ月かけて掘削・設置。深井戸からタワー型給水塔～外壁まで配管し、路地から住民が安全な水を給水！
これまでペンバ寺子屋とナティティ平和の家に深井戸を設置しました。

企業のほとんどは外国人が経営。モザンビークのいのちをつなぐ会では、スラムの経済を回すために企業に外注せず、スラムの職人さんと一緒に様々な活動を行っています。

タワー型給水塔





主な活動<5>: 環境保全活動

環境問題と貧困問題の
両立解決！

環境保全活動

後進国の環境問題は貧困問題とセットが重要！

未来の姿を目的とした環境問題解決策は、日々を生きることで精一杯な貧困地では住民を巻き込む力が弱いため、貧困問題改善につながる実利ある施策が大切！

家庭と公共の場の清掃を行なう美化活動では、美化委員への報酬、美化大賞の贈呈と、モチベーションを高め、実利のある活動を実施。

女性メンバーの採用にも注力しています。

2024年度は第8回環境美化活動を実施。**廃プラ問題**にも取り組んでいます。

目的：地球・地域環境意識の向上、自然資源の保全
きれいで衛生的な町づくり、貧困改善

内容：環境美化活動、食べられる緑化、環境学習

対象：ペンバのスラム地区全域

目標

貧困問題をカバーする自然・地域環境の改善。



モリンガの播種・育成・移植



路地はモリンガの緑いっぱい



今後はバナナの栽培に挑戦！



主な活動<6>: テロ紛争被災者支援活動

平和の家 Casa de Paz
ナティティ地区
エスパンサオン地区

テロ紛争被災者支援活動

16 平和と公正を
すべての人に



10 人や国の不平等
をなくそう



2 飢餓を
ゼロに



13 気候変動に
具体的な対策を



避難民の「安全な場所で寝たい」との相談件数が増え、2021年に建築した避難施設・ナティティ平和の家 Casa de Paz。避難施設のない別の地区でも平和の家と、避難施設兼共同水場の建設を計画しています。

ナティティ平和の家

住居

食料

衣料

浄水

気候変動の影響をもろに受け
巨大サイクロンが上陸するようになって
いるため、**サイクロン被災者支援**も実施。

エスパンサオン避難施設兼共同水場
建築途中ですがすでに避難民が住んでいます。

目的：避難民、被災者のサポート

内容：避難施設＜平和の家 Casa de Paz＞の建築運営
避難施設兼共同水場の整備、食料配布、衣料配布

目標

支援が行き届かない人たちの命を確実に守る。



2024-2025年度の 重点活動



写真：毎日の配食の様子。
当会スタッフと寺子屋OGで、
毎日子どもたちの食事を作っています。



実施地域マップ

モザンビーク共和国カーボデルガド州 ペンバ市 ナティティ地区およびエспанサオン地区



ナティティ平和の家

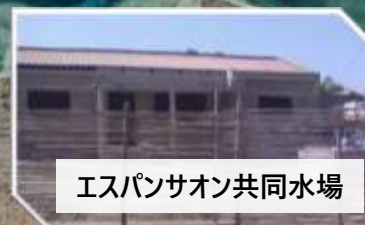


ペンバ寺子屋

●ナティティ平和の家

●当会事務所

●ペンバ寺子屋



エспанサオン共同水場

●エспанサオン共同水場

✈ペンバ空港



エспанサオン平和の家

●
エспанサオン
平和の家

<距離>

- 空港から事務所
車で15分
- 事務所から平和の家
徒歩8分
- 事務所から寺子屋
徒歩8分
- 事務所からエспанサオン
平和の家
車で30分
- 事務所からエспанサオン
共同水場
車で30分
- エспанサオン平和の家
から共同水場
車で10分



重点活動① 子ども配食活動 & 公衆衛生活動 (セットで実施)

課題

【飢え・栄養状態の悪さ】

1日1食以下で生きる子どもたちが15%。
7割が栄養不良。

【子どもの死亡率の高さ】

5歳未満の死亡率は8%。

下痢、マラリア、結核、HIVが死因の半数を超える。

【感染症の流行】

避難民の流入で、2023年からコレラが蔓延。
2024年から出血性結膜炎が流行。

実績

テロ紛争が激化した2020年度からペンバ寺子屋にて、
子ども350名を対象に、毎日朝晩、食料配布と日々の手洗いうがいを
実施。4年連続コレラ・コロナ罹患・死亡率ゼロを達成中。

目標

子どもの死亡率ゼロを5年連続で達成する！

朝と晩の配食

ペンバ
寺子屋

公衆衛生 キレイ習慣

目的

- 寺子屋に通所するすべての子どもたちが 1日2食摂食できるようにする。
- 飢え・栄養失調を予防する。

内容

朝：毎朝パン 200～300個
 夕：豆シチュー等 欠食児童 50名
 ・毎週1回イベント食・みんなでランチを実施。手作りお菓子も配布。

対象

朝：おなかを減らして施設に来る子どもたち (150-300人)
 夕：寺子屋近所の欠食児童 50人
 ＊治安が悪く、暗くなって外に出ることを避けるため
 夕食は暗くなる前に帰宅できる距離に住む欠食児童。

補足

- 栄養バランスを考えて、2023年度からパンに野菜や豆を入れるサンドイッチ、豆シチューに鶏肉や卵を入れるなど、普段摂取量が少ない緑黄色野菜や動物性タンパク質を取り入れる工夫をしている。
- スラムのママさんへの食材配布も実施。

配食と公衆衛生をセットにして実施



目的

- ウイルス、細菌等感染症による罹患・疾病死亡率の低減

内容

手洗い、うがい、歯磨き、爪切り
 食器洗い、洗濯。疾病基礎知識
 ＊コレラ、結膜炎、結核、HIV、マラリア
 予防の座学も実施
 ＊家庭への石鹸、洗剤配布も実施

対象

ペンバ寺子屋キッズ 約350名
 その家族（1世帯に20名以上居住）
 インパクト：7,000人

新たな 試み

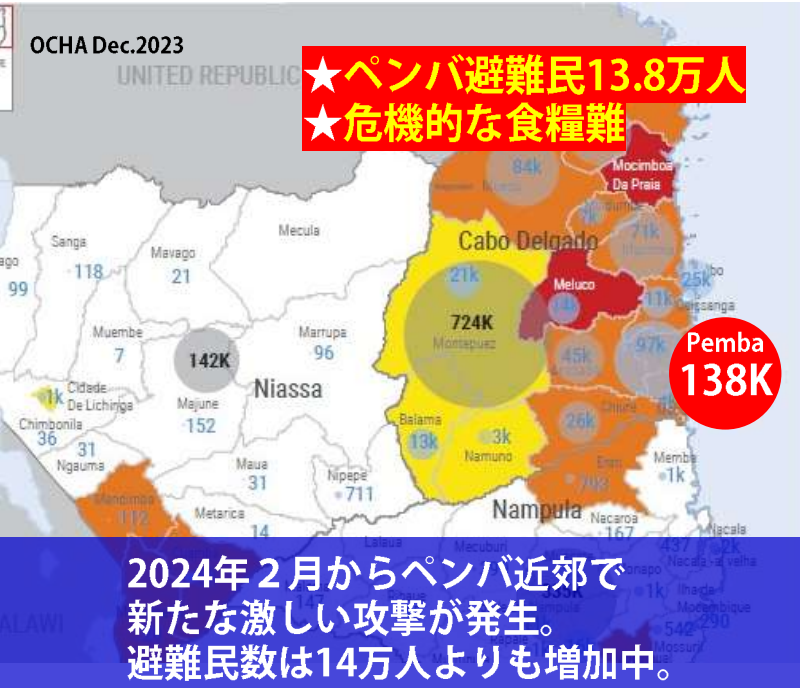
スラム地区のピロリ菌感染率調査

アフリカにおけるピロリ菌の感染率は70.1%と推定されている。スラムで胃痛に悩む中年層が目立つため、簡易キットを調達し、ピロリ菌感染率を調査。治療薬の調達についても調査していく。





重点活動② テロ紛争被災者支援



実績

- ・ナティティ平和の家を2021年に建築。
- ・深井戸を整備。

補足

避難施設は地域に開かれた公民館としても活用していく。

目標

新たにエスパンサオン地区に平和の家と避難施設兼共同水場を完成させる。（2か年計画）

課題

【ペンバに避難民14万人流入】

避難民はスラムの住民が自主的に受け入れ一つの家に30-50名で居住する家もある。

治安が悪化しているペンバで安全に眠れる避難施設がない。

＊避難テントで支援と引き換えの性的暴行が多発。妊娠する女子が増えており、ペンバ寺子屋に「安全な場所に住みたい」と相談に来る避難民が多数存在。

＊当会事務所の部屋も避難民が居住中。

【安全な水と食料が不足】

感染症も流行しているため安全な水のアクセスが可能な設備が必要。

ペンバは危機的な食糧難に陥っている。

＊ペンバは川もなく、安全な水のアクセス率が低い。

＊水道の敷設率は5割だが、水の出が悪く、水が出るのは良くて週に1回数時間だけ。

＊スラム地区は地下水の汚染を考慮し、深井戸の設置が望ましい。

A エспанサオン共同水場の整備

エспанサオンの貧困エリアも、多くの避難民が親類や知り合いの家に避難しているが、水道インフラが整っておらず、安全な水の入手が困難なため、避難施設兼共同水場を整備し、**安全な水へのアクセスと安全な住まいの提供**を可能にする！



2023年度活動



地下式水タンク設置

2.5m x 2.5m x 3.0m

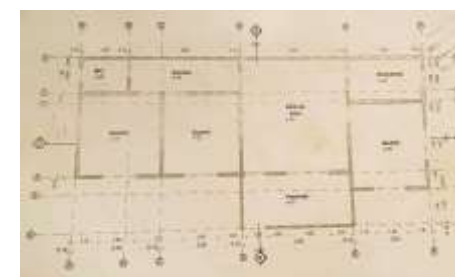
2024年度活動



すでに避難民が居住

建屋整備

屋根、壁・床、ドア、窓



建築パース

2025年度活動

- 1: 電気設備整備 (井戸ポンプに電気必要)
- 2: 45mの深井戸の整備
- 3: 地下タンク蓋の整備
- 4: 屋内屋外トイレの整備

対象

A: テロ紛争避難民：
50名/3ヶ月×4＝200名/年間以上
B: 地域住民（安全な水の利用）：
200世帯（4,000名）

合計
4,200名の
インパクト

補足

共同水場の建屋は、将来的に、エспанサオン地区のコミュニティセンター（公民館）として機能させていく。
*現在は、テロ紛争問題が最も頭を悩ませる問題であり、ペンバに流入している避難民からの住居に関する相談が増加の一途のためテロ紛争避難民が利用することがメインになる。

2026年度活動

- ・タワー型給水塔整備
- ・外壁ブロック塀の整備

B エспанサオン平和の家Casa de Pazの整備

エспанサオン地区に流入する避難民が安全に暮らせるように
ナティティ平和の家(Casa de Paz)に続き、2棟目となる平和の家を建築し、
紛争避難民が安全かつ衛生的に暮らせるようにする。

2025年度以降の活動

- 1: 外壁工事 (高さ2.5m、鉄門扉)
- 2: 電気・水道・深井戸整備
- 3: 建屋の整備
- 4: 備品整備 (簡易ベッド、扇風機、冷蔵庫)

* 必要資金が多額なため、資金調達できた部分から活動を行なう。

対象 ▶ 2ルーム 8部屋

5-10人 x 8部屋

1部屋：3-4か月滞在

年間居住想定：225名

井戸利用人数：200世帯
4,000名

合計4,225名のインパクト



エспанサオン平和の家 建設予定地の現状：

- 敷地面積25mx30m。 ● 2019年に土地購入。
- 2020年に外壁を半分の高さまで建築。
- 基礎に必要な石を購入済み。
- 2023,24年に雑草やゴミの除去を実施。

エспанサオン平和の家 建屋の完成イメージ





重点活動 ③ 寺子屋の整備

ペンバ
寺子屋

ベランダ教室の拡張

施設劣化と通所人数増加に対応するベランダ教室の拡張。

子どもたちの数がこの10年間で10倍に増えており、現在約350名が通所。暑いのでベランダと屋外で分けて教育を行っているが、雨天でも使えるベランダを2倍の大きさに拡張する。



2024年度活動

- ・床壁改修
- ・網戸修理
- ・屋内トイレ整備
- ・屋外汚物槽清掃
- ・鉄扉修理

2025年度活動

ベランダ教室の拡張

- 現在2.2mx5.7m
⇒奥行きを4.5mにして
子どもたちがベランダ教室
を利用できる数を増やす
- 床とトタン屋根の拡張



奨学用品

- 2023年24年度は資金不足により**学校制服の配布**ができなかったため、2025年度に実施。
- 通学、怪我防止のためサンダルがない子どものために**サンダル配布**。

新たな
試み

奨学金制度

専門学校・大学進学のための奨学金制度導入

経済的理由で多くが進学できないため、寺子屋の15歳以上の進学希望者に奨学金サポートを行なう。

専門学校	先生	8,900円/月 × 3年間	合計35万円
専門学校	看護師	7,100円/月 × 3年間	合計30万円
大学	会計士、弁護士	9,500円/月 × 4年間	合計50万円

ナンプラ
寺子屋

ナンプラ寺子屋の水道の敷設

2022年度に深井戸掘削のため、まず手掘りするも岩盤が固く撤退。
ボーリング会社に依頼し、垂直電気法で地質調査後、60m掘削するも
水が出なかったため、幹線に水道管が敷設され次第、水道管を敷設する。



ナンプラ寺子屋は、ブロックがむき出しの状態で、床も土であったため、2023年度に、全面セメント塗りを行った。写真はセメント塗り作業中の様子



2021年に紛争の疎開施設として開設したナンプラ寺子屋。
現在、子どもたちはナンプラ州の学校に通い、寺子屋はコミュニティの集会場としても活用しています。

ナンプラは井戸水が出にくいエリア。水道敷設が急務です。

岩盤が固く
手掘り断念。
ボーリング車
による
井戸掘り
挑戦の様子



垂直電気法での
地質調査



巨大なボーリング車に
人だかり



60m掘るも
水が出ず

2025年or
2026年度に
配水網が近くに
引かれる予定。
ナンプラ寺子屋
に水道敷設！

- ナンプラ寺子屋：
ナンプラ州ナンプラ、ナミコポ地区
- 現在の居住者数：
ペンバから疎開する子ども 20名
- 管理人：2名

第9回
2025年

自分たちの町を自分たちでキレイに！海洋生物の保護。

ペンバ環境美化活動



目的

増加する廃プラ問題を改善！

- ・廃プラによる海洋汚染を防ぐ。
- ・家庭と公共の場の美化。
- ・美化習慣を身に付ける。

内容

- ・美化委員26名を結成（1名委員長）
- ・ビーチと路地の美化
- ・毎日の家庭の清掃
- ・美化コンテスト

対象

- ・スラム地区3エリア3000世帯対象



スラムで人気の美化委員。
女性の子カラを活かす方針で活動を展開。
2024年度に第8回美化活動を実施。

子ども
環境
WS

故郷の豊かな自然の価値を
子どもたちに教え、
環境保全意識を高める。

- ・地球と地域の環境問題座学
- ・海洋保全ワークショップ(WS)
- ・廃プラリサイクルWS

自生植物で緑化を行い、同時に食糧難を改善！

食べられる緑化・バナナの栽培

目的

環境保全と、食糧難・栄養失調の改善！

- ・エネルギー価の高いバナナを栽培して、緑化を行いながら、食糧難と栄養失調の改善を図る。

内容

- ・毎年300軒の家の庭にバナナを植え、株分けで増やしながらか合計3000軒の家庭でバナナを収穫できるようにする。

対象

- ・スラム地区3エリア3000世帯対象

補足

- これまで5年間、食べられる緑化プロジェクトとしてモリンガの栽培移植を実施。スラムの路地のモリンガ移植が成功したため、2025年度から次のフェーズとして、住民の要望が多いバナナを採用。



2023年度2024年度は資金調達が
できなかったため
2025年度からバナナPJ実施。

食べられる緑化プロジェクトでは、植物の管理コストがかからないよう、スラムの家の庭・垣根に、植物の移植を行っています。



重点活動⑤ 小さな商いプロジェクト

課題

【失業率7割超え】

就職先が限られており、定職に就くことが困難。インフォーマルセクターで日銭を稼ぐ方法しか選択できないケースが多数。

【技術習得の場が少ない】

電気、メカニック、英語など技術・知識習得の費用が高く、研修の場も少ない。

【当会の資金調達が困難】

寄付金が集まりにくい。民間助成金に依存するも、助成金も採択されにくい。

2030年までにスラムの住民が自立創造的に支援と経済の循環を作る、住民主導の理想的なコミュニティ開発を実現。

モザンビーク、当会は知名度が低く寄付が非常に集まりにくい。

資金の8,9割を民間助成金に頼っているが助成金が縮小。採択率も大幅減。

円安！物価の高騰！活動費が膨れ上がり、資金が全く足りない。

支援に使う資金の調達の方法を新たに開拓する必要がある。

新・最大の挑戦！

小さな商いプロジェクト

2030年までに完遂

目的

スラムの住民が自立創造的に支援と経済の循環を作る、住民主導の理想的なコミュニティ開発を実現。

- ・コミュニティの相互扶助力を強化する
- ・起業機会の創出
- ・社会支援の資金と機会の増大
- ・就業場所の創出
- ・トレーニングの場の創出
- ・自立創造型コミュニティのモデルケースづくり

内容

スラムで住民が必要とする事業を興し、スラムの経済を回し、みんなで創った収益を子ども・被災者・奨学・能力開発などの支援に活かす。

社会的ジレンマを起こさない事業(商い)=パン屋・製粉屋・運輸・薬局・食堂等の立ち上げ

モザンビークのいのちをつなぐ会が可能にするコミュニティ開発、 スラム地区における社会支援と経済の循環。

Theory of Change



小さな商いの概要

立ち上げるのは、社会的ジレンマが起きない仕事
＝スラムの人たちが必要とし、スラムの人たちが利活用できる仕事。

2024年度活動

- ・土地さがし⇒スラムは火災が発生・延焼しやすいため、電気機器を使用する商いに適した土地をスラム地区に購入。
- ・機材見積もり⇒大型機材の見積もり取り。ペンバ市に販売していない機材が多いため他都市で見積もりを取る。
- ・資金調達⇒土地購入、機材・資材購入費の資金調達。

2025年度活動

- ・土地購入 ・資機材購入
- ・建屋建設⇒各商い（店舗）が入る複合施設の建設。
- ・運営トレーニング⇒パン作り、薬剤師資格取得、免許取得など技術習得。
- ・資金調達⇒各商いのイニシャルコストの資金調達。

2026年度以降

順次、商い開始のための資金調達、トレーニング、資機材購入を行い、商いスタート。

スラム地区に事務所を構え、長年活動を行っているモザンビークのいのちをつなぐ会だからこそ実現する！
小さな商いプロジェクトで、支援と経済が循環する理想的なコミュニティ開発。

商店、薬局、食堂

店舗事業

- 製パン屋 ●製粉屋 ●キオスク
- 薬局 ●理髪店 ●大衆食堂

運送

トラック・バン・バイク

- バスの運行 ●バイクタクシー
- 救急車

フリーマーケット

市場

- 誰でも手数料なしで売買ができるフリーマーケット

事務サービス

コピー・インターネット

- 書類コピー、スキャン ●書類作成
- インターネットカフェ ●WEB事業

社会支援へ還元

子どもへの配食

疾病予防

被災者支援

進学サポート

就業・起業サポート

利益活用

就業
起業

**小さな商い
プロジェクト**



製パン屋 子ども朝のパン配食に連動

目的

毎日の子ども配食のパン購入代のコスト削減と、販売。
寺子屋OBOGの調理技術の習得。

内容

パンの製造・販売・配布。

補足

- ・業務用パン焼き機（中型電気式オーブン）は首都で購入、輸送。（ペンバ、ナンブラで販売していないため）
- ・製パントレーニングはナティティパン屋と共同実施。



コピー屋 コピーやスキンの代行

目的

ナティティ地区にオフィス業務代行業がないため
スラムの住民が便利に書類作成・提出できるようにする。

内容

コピー＆スキャン＆FAXもできる複合機の整備。

補足

- ・複合機はペンバ市で購入可能。
- ・ラミネートのニーズも高いため、ラミネート機も整備。
- ・ネットカフェと連動させ、住民の事務作業効率向上。



薬局 必要な薬を適正価格で販売する薬局

目的

必要な薬剤の確実な調達。
寺子屋で病人の薬購入を行なうとき処方薬が薬局に無い
もしくは高額すぎるが多いため、自前で薬局整備。

内容

薬局の開局。薬剤師育成。

補足

- ・薬剤師は将来的に、寺子屋メンバーが資格取得。
- ・薬の調達ルートが多様化のため視察必要。
- ・日本からの薬剤寄付について法律確認。



製粉精米屋 日常利用するミル作業

目的

トウモロコシの製粉、米の粳摺り・精米を手作業でなく
機械でできるようにする。

内容

メイズミル、ライスマルの整備。機械のメンテ研修参加。

発展型

【搾油事業への発展】

子どもたちのおやつとして食べられている
マルラを搾油（コールドプレス製法）し、
美容ビジネスへ活用。



ネットカフェ パソコン利用促進

目的

パソコンやインターネットの利用促進。PCスキルの向上。

内容

複数機のパソコンの整備。Starlink（米国SpaceX社）導入。

補足

- ・ビジネスソフト（Word、Excel、PowerPoint等）研修。
- ・ネットリテラシー教育の実施。

連携

【ペンバ音楽スタジオとの連携】

当会がサポートし設立した音楽スタジオと
連携し、レコーディングやMix技術を習得。



バイクタクシー 手軽なバイク

目的

スラムの住民が手軽に移動できるようにする。

内容

複数台のバイク整備。運転免許取得サポート。

補足

寺子屋OBを積極採用し、バイク免許取得させていく。



その他の活動 国際相互理解推進活動

第1回
2024年

THE ONE

世界の孤児院の子どもたちと1つのステージを創る

THE ONEとは

世界中の孤児院、スラムの子どもたちを日本に招待し、言葉も宗教も肌の色もまったく違う子どもたちが1つのステージを創り、公演するプロジェクトです。

THE ONEが目指すもの

子どもたちと、より良い未来を創る

孤児院の子どもたちが、広い世界と国境を越えて世界中の同世代の仲間とつながる経験をする。

そして、その経験をした子どもたちが自分の国に戻りほかの子どもたちにその体験を伝える。

その流れを作っていくことで、子どもたちと共に、より良い未来を創造します。



運営母体：NPO法人 Les World

協力：一般社団法人モザンビークのいのちをつなぐ会



2019年5月ペンバ寺子屋での演劇ワークショップの様子

2024年
9月

**世界10カ国から20名の子どもたちが日本に集合！
ペンバ寺子屋からマギーとフロレンシオが参加！**



マギー



フロレンシオ

内容

- 1：国境を超える日本の旅 世界の10箇所の孤児院から2名ずつ合計20名が日本にやってきます。
- 2：日本でのホームステイ・文化体験 日本に滞在する1週間のうち3日で日本の体験。
- 3：ミュージカルを創り上げる 1つの作品を創り上げることで絆を生み出します。
- 4：1,000人のステージで公演 本番では1,000人の観客の前で公演！最小単位の世界平和を実現。

ナジャ講義公演

露ウ戦争、パレスチナ・イスラエル戦争の影響もあり、テロ紛争地で教育・被災者支援活動をしている私たちに【**体験に基づく平和の話**】の要望が増えています。2024年・2025年度は、「この混迷の時代を生き抜き、相互扶助の力を一人ひとりが持ち、平和を導く」ため、＜**善く生き、平和と調和ある未来を創る**＞をテーマに、日本各地の学生や一般市民向けに、紛争のリアル、アフリカでの経験とそこから紡ぎ出される音楽を交えて、参観者一人ひとりの意識が高まり、調和と安寧なる世界への一歩となるイベントを実施します。

ナジャの美しく力強い音楽とトークを組み合わせ、エゴから共生への意識と行動の変化を促したい。

目的

平和意識や相互扶助力の向上。
ひいては安寧な世界の創造に貢献する。

内容

【ナジャの弾き語り】

幼少期の内戦と現在のテロ紛争を体験しているナジャ。平和に対する思い、モザンビークの暮らしや民族、日々の出来事を歌にした、ナジャのマコンデ語・マクワ語・スワヒリ語・ポルトガル語を用いたギターの弾き語り演奏。

【トーク・榎本恵&ナジャ】

- ・資源開発と紛争 ・スラムの暮らしや食、調理、住環境、子どもたち
- ・貧しすぎても助け合い、いのちと暮らしを支え合うスラムの習慣
- ・呪術 ・気候変動の影響によるサイクロンの上陸

実績

450公演以上、2.2万人の動員。

- ・2015年から2023年まで、アフリカ・欧州・日本で公演
- ・2023年度の公演実績：全34講義・公演 参加者：2,375名
- ・世界各国のアーティストとの共演実績多数



門真市の小学校での講義



コミュニティスペースでのライブ



パーカッションレクチャー



音楽劇『YASUKE』のテーマソング提供、出演。



代表とディレクターの紹介

代表理事・モザンビーク事務局長 榎本 恵 Megumi Enomoto

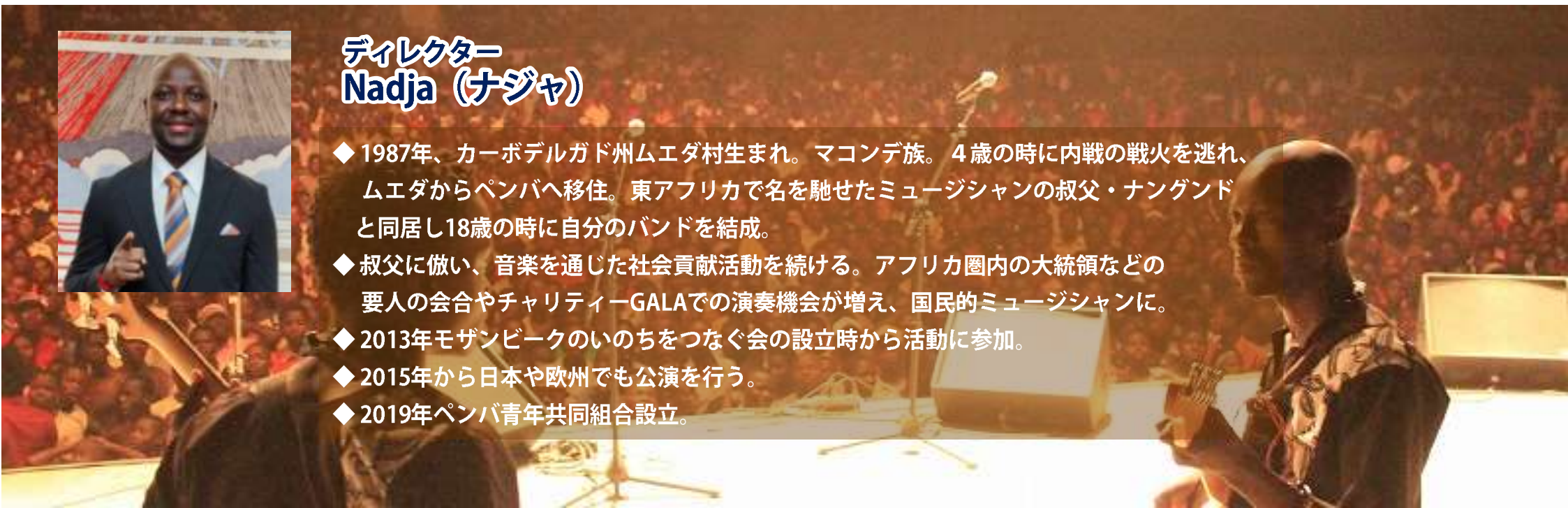


- ◆ 福岡県北九州市小倉生まれ。ペンバ・ナティティ地区在住。
- ◆ 大学卒業後、広告代理店でプランナー&コピーライターとして勤務。
- ◆ 2000年、起業・事業拡大支援を行う Planning MAY を開業。
主に環境・農業・通販・教育系企業のビジネスサポートを手がける。
- ◆ 2012年、日系企業のモザンビーク進出をきっかけに、
初めてアフリカの地を踏む。半年間、新規事業開発業務を行う。
- ◆ それまで後進国の開発地区で目の当たりにした、「取り残された貧困層の問題」、
「先進国の開発論理と後進国の貧困層のニーズのジレンマ」を少しでも解消すべく、
2013年4月『NGOモザンビークのいのちをつなぐ会』を設立。
2018年12月、一般社団法人化。



ディレクター Nadja (ナジャ)

- ◆ 1987年、カーボデルガド州ムエダ村生まれ。マコンデ族。4歳の時に内戦の戦火を逃れ、ムエダからペンバへ移住。東アフリカで名を馳せたミュージシャンの叔父・ナングンドと同居し18歳の時に自分のバンドを結成。
- ◆ 叔父に倣い、音楽を通じた社会貢献活動が続ける。アフリカ圏内の大統領などの要人の会合やチャリティーGALAでの演奏機会が増え、国民的ミュージシャンに。
- ◆ 2013年モザンビークのいのちをつなぐ会の設立時から活動に参加。
- ◆ 2015年から日本や欧州でも公演を行う。
- ◆ 2019年ペンバ青年共同組合設立。



主なスタッフの紹介

代表の榎本恵と、ディレクターのナジャ。そして愉快的スタッフたち。
スラム地区に住む青年、ママさん、職人さん **総勢100名体制**で
汗水を流し、すべての活動にチカラを注いでいます。

カシアーノ、ニーノ



頼もしい寺子屋サパディレクターのカシアーノと
足に障害があるけど頑張っている講師のニーノ
ナジャの不在時も万全の体制で活動を続けてくれます。

パウロ



平和の家マネージャーの
住民の意見をまとめるのが得意です。

オズバルド



ペンパ音楽スタジオ主宰の入れ墨の
素になる植物・ディンバディーカと。

タニム



寺子屋用務員の知的障害が
ありますが、真面目で面白い！

ジョルダン



警察官のジョルダンは、トラブル発生時
や交渉事に大活躍してくれます。

アリサーヤ



寺子屋の調理学長の寺子屋を建てる
以前は事務所の庭で子どもたちに読み
書きを教えてくれていました。

フローレンシオ、ラモス、ベニ、イルラ、ダニロ



年々増えていく幼児組のお世話をしている
寺子屋キッズです。みんな大きくなった！



Obrigado

支援の輪を広げたいっ!
ご寄付はこちらから



銀行振込でのご寄付

銀行振込

三井住友銀行 天神町支店:717 (普)1920099
一般社団法人モザンビークのいのちをつなぐ会

※銀行振込された方は、ご寄付者の管理を正確に行うため、
enomegu@gmail.com までメールを頂けると助かります。



PayPal (ペイパル)

海外からのご寄付にも便利。

paypal.me/terakoya

https://paypal.me/terakoya?country.x=JP&locale.x=ja_JP

新導入



【オススメ】当会ホームページでのご寄付

寄付サイトを使うよりも手数料が安く、単発のご寄付・マンスリーサポーターにも対応!

単発も月々も、ダイレクトに、当会の活動を応援!



寺子屋マンスリーサポーター
& 単発でのご支援

<https://www.tsunagukai.com/information/donation>



寄付サイトでのご寄付

インターネットで簡単にご寄付。信頼できる寄付サービスを利用しています。

寺子屋キッズを毎月支援する仕組み



寺子屋マンスリーサポーター

社会問題と向き合う人のクラウドファンディング、
GoodMorningを通じたご寄付です。

<https://community.camp-fire.jp/projects/view/377263>



活動全般を都度や月、年とフレキシブルに応援

単発・毎月・毎年のご支援

公益活動を行う非営利団体のための寄付プラットフォーム、シンカブルを通じたご寄付です。

<https://syncable.biz/associate/tsunagukai>



一般社団法人モザンビークのいのちをつなぐ会 (PVM)

e-mail enomegu@gmail.com / may@tsunagukai.com

【日本事務所】 〒800-0233 福岡県北九州市小倉南区朽網西 3-12-6 Tel&Fax: 093-472-1444

【モザンビーク事務所】 Rua sem Saida, Bairro de Natite, Pemba, Cabo Delgado, Mozambique
Tel: +258-86-5130004, 87-7417034

<http://www.tsunagukai.com>



ホームページ



Facebook



Instagram